発行:2024年1月

大阪男女いきいき財団 ニュース NEWS

vol.47
2024.1

30年分の感謝をこめて。

30th anniversary since1993

能登半島地震　被災地の女性の健康問題解消に向け 衛生用品100セットを避難所へ

2024年1月1日に発生した石川県能登半島沖を震源とする地震により、北陸地方では甚大な人的・物的被害が発生しました。

この災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。

避難生活の長期化が懸念される中、被災地では、女性特有の健康や衛生問題へのケアが課題になっています。現地の女性を支援しようと、大阪男女いきいき財団と同じく、「女性のエンパワメントで高める地域の防災力リーダー育成事業」に取り組む一般社団法人こども女性ネット東海（名古屋市）が救援物資を届ける活動を始めました。

大阪にいる私たちも、地域防災女性ファシリテーター養成講座修了生の方々と一緒に、女性のための衛生用品をまとめたポーチ100個をセット。メッセージカードとともに、こども女性ネット東海の皆さんに託し、1月下旬に、石川県七尾市の避難所に届けていただきました。財団では、引き続き関係団体と連携しながら、少しでも被災地でのジェンダー課題解消につながる支援を模索します。

▲被災地から要望があった衛生用品を中心としたセット。女性用吸水シートやマスク、液体歯磨き、リップクリーム、ヘアゴム、手鏡、喉ケアのタブレットなど。

What's 大阪男女いきいき財団 - Osaka Gender-Equal Community Foundation -

ダイバーシティ（多様性）の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがイキイキ暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪）5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

自分らしく生きられる社会をめざす合言葉　広げよう

1993年に、財団法人大阪市女性協会として設立されてから30年。私たちは、男女共同参画やジェンダー平等、さらには男女にとどまらないダイバーシティ推進に挑戦し続けてきました。2013年には一般財団法人となり、大阪市男女共同参画のまち創生協会として、行政からの受託事業だけでなく、独自の事業を展開する団体に成長しました。

そして、30周年の節目を迎えた2023年、一般財団法人大阪男女いきいき財団として新たなスタートを切りました。

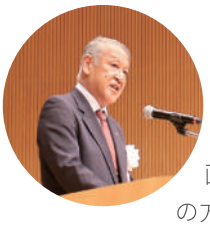
これまで以上に親しみをもっていただき、大阪・関西のさまざまな地域の連携を深めたいという思いを込めています。

今号では、昨年7月にクレオ大阪中央で開催した30周年記念イベントの模様をお届けします。キャッチコピーは「行けるところではなく、行きたいところに行こう！」

自分らしく生きられる社会をめざす、この合言葉を私たちと共に広げていきませんか？

▶ブリランティッシモによる混声四重唱＆ピアノ演奏

京極 務　大阪男女いきいき財団理事長



財団の名称変更を機に、改めて皆さんの生活に根ざした応援団として飛躍をめざします。30周年を節目に、事業の充実や情報発信力を高め、大阪の男女共同参画といえば大阪男女いきいき財団だと多くの方に認識いただけるよう、財団の実力・ブランド力を高めていきます。ぜひ、アイデアやご意見をいただければ幸いです。

岡田 恵子さん　内閣府男女共同参画局長

出産などを理由に、20代後半から女性の正規雇用率が下がる「L字カーブ」が、今の課題です。女性活躍は行政だけで進むものではなく、議会や地域、企業などあらゆる分野での働きかけが重要。また、女性だけではなく、男女ともに希望に応じた生き方やキャリアを形成できる社会の実現に向けて、皆さんとともに取り組んでいきます。

30周年、情報発信に力を入れています！

萩原 なつ子さん　独立行政法人 国立女性教育会館理事長

リーダーが動くためにはフォロワーが必要です。「それいいね！」「私も一緒にやるよ」というフォロワーシップが欠かせません。大阪を拠点にした男女共同参画のリーダーとして、大阪男女いきいき財団が次は40周年に向けて進み始めました。ここに集った方をはじめ、皆さんの協力を得ながら、一緒に景色を変えていきましょう。

私たち、そして大阪の女性の歩みを未来に伝えるために

30周年記念誌「行きたいところに行こう！」

男女共同参画を取り巻く社会の動きと財団の歴史を振り返る特集のほか、経済や福祉の現場で活躍する方々や専門家の座談会などを掲載。私たちが今届けたい思いを一冊にまとめました。

アーカイブ「OSAKAウーマン」

大阪を拠点に、女性の地位向上やジェンダー平等に貢献した女性5人に取材。先輩たちのストーリーを次世代に引き継ぐために、動画と冊子、2つのツールで情報発信しています。

「行けるところではなく、行きたいところに行こう！ ～ジェンダード イノベーションで社会を変える～ 」

選べる自由を広げたい　社会活動をするロールモデルに

野間　麻子さん
NPO法人ハイヒール・フラミンゴ代表

川村義肢㈱の社員として福祉用具店店長を務めながら
女性義足ユーザーのコミュニティを運営

「義足」「女性」という2つのマイノリティ要素を持つ参加者たちは、人生のあらゆる場面において「自分が我慢をすれば」「少しくらい無理をしよう」という考えを無意識のうちに選んでいました。でも、言わないから要望がないわけではない。みんなのちょっとした困りごとを整理すると「愚痴」ではなく「意見」になり、それを伝えることで社会を変えられます。まさに「パーソナル・イズ・ポリティカル」ですね。自由とは、心身状況ではなく、生き方や制度を自分で選べること。そう実感します。

NPO法人を運営していると言うとハードルが高そうだと思われがちです。でも「趣味は社会活動」と言えるくらい気軽な感覚で始めてみてほしいです。私がそのロールモデルになれるよう活動を続けます。

▲義足でもおしゃれをあきらめない女性の象徴「ハイヒール」と片足で凛として立つ「フラミンゴをイメージ。

「場づくり」が地域を支える担い手を育てていく

クレオ大阪中央のチャレンジカフェコンサルタント
として女性の起業や地域活動を支援

飲食業をしたいのか。それとも、場づくりをしたいのか。カフェ講座の受講生に毎回尋ねる質問です。2010年頃は5:5だったのが、いまは2:8。場づくりというキーワードへの関心が高まっていると実感します。

1つは当事者として、何かテーマに沿った場をつくろうという動きが目立ちます。たとえば、子育て中の人や、障がいのある家族を抱えてしんどい思いをしている人は、自分の場を必死でつくっていかなければならない。そんなモチベーションがあるのではないでしょうか。

もう1つは、地域の課題解決に向けてカフェの要素を組み込もうとする動き。男性中心の自治組織が多い中、自分たちの関心のあるテーマで活動しようという女性の話を聞くこともあります。企業に属した活動とは別に、こうした取り組みが広がることは、地域社会を支える担い手づくりにつながっていくと信じています。

山納　洋さん
大阪ガスネットワーク㈱事業基盤部
都市魅力研究室 /
談話室マチソワ主宰

ジェンダーギャップ解消　変化のペースを上げる行動を

外交官の夫と公使の仕事を交互に分担する
「ジョブシェアリング」を実践

父親が家で自分たちと過ごしながら家事をし、その間母親がキャリア構築に励む。一定期間後にその役割が真逆になる。そんな光景が当たり前の環境で育った我が家の子どもたちは、職場、家庭、議会、メディアなどあらゆる場面にジェンダー平等を期待するようになりました。私たちはジョブシェアリングという形でしたが、キャリアと家庭の両立ができる柔軟な働き方はそれ以外にもあるはずです。

世界経済フォーラムによると、世界中のジェンダーギャップを埋めるにはあと131年。日本は189年かかると予想されています。私たちの子ども世代すらその場に立ち会うことは不可能かもしれません。それでも、次の世代のために、私たちは少しでも変化のペースを上げられるような行動を起こしていかなければなりません。

キャロリン・デービッドソンさん
在大阪英国総領事

自己肯定感を高め、チャレンジを称え合える関係を構築

沢田　薫
大阪男女いきいき財団理事兼事務局次長

休眠預金を活用した「女性のエンパワメントで高める
地域の防災カリーダー育成事業」に携わる

地域のジェンダー課題改善と災害時の危機の回避。その両方を支える女性リーダー人材育成に力を入れています。オープンに未来志向で対話し、チャレンジを互いに称え合う。講座受講者には、この価値観を共有してもらいます。女性が何か活動したいと思っても、地域や家族から反対されることも少なくないと聞きます。でも、この場に来ることで自己肯定感を高め、仲間同士で障壁を乗り越えていけます。そんなネットワークを広げることで、私たちにとって生きやすい未来社会に近づけると思います。

ジェンダーの課題解決の優先順位、皆さまの活動現場では実際どうでしょう？　1つでも順位を上げてアップデートしていきませんか。共に盛り上げてください。

パネリスト4人に聞いてみた！

Q.「行きたいところに行く」には何が必要？

声を上げること。 自分一人ではできなくても「こんな方法がある」「この人に相談したら」という輪が広がります。
— 沢田

女性議員を増やすこと。 男女平等な社会をつくるためには、意思決定の男女比を平等にすることが欠かせません。
— キャロリンさん

私も**女性議員を増やすこと。**「行きたい」「やりたい」を実現するには、話を決めるテーブルに女性が座らなければ。
— 野間さん

対話。 相手を決めつけず、フラットな状態で聴き合い、話し合うことでコンフリクトを解消していく。日々の中で実践できます。
— 山納さん

Q.新たな仕組みや制度をつくる「種」の見つけ方

「前例がないからできない」では何も変えることができません。強い社会をつくるために多様性が不可欠です。
— キャロリンさん

心が元気になれば、行動するための道具（商品）が必要になる、その両輪です。企業がもっと視野を広げ、お客さんの心を勇気づける活動を！
— 野間さん

無理だから考えてもみなかったけどできないか。そんなジレンマがイノベーションを生むのでは。困りごとがあると人は集まれます。
— 山納さん

ジレンマを抱えていても話すほどのことではないと考えてしまう人も…。そんな声を拾えるもっとゆるやかな場を増やしたいですね。
— 沢田

女性のエンパワメントで高める地域の防災力リーダー育成事業

地域防災女性ファシリテーター養成講座　修了生の声

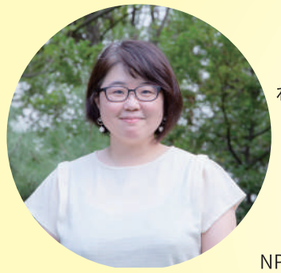
地域防災の現場で活躍できる女性を育成しようと、財団では2023年6月から11月まで、全12回の連続講座を開講しました。参加したのは、企業や地域団体、大学関係者や経営者など、多彩な現場で活動する女性29名。受講者たちは、ジェンダー平等・多様性の視点を軸に、災害や防災・ファシリテートの基礎知識を学ぶだけでなく、防災まちあるきや避難所開設、東日本大震災の被災地を訪れる2泊3日の研修など、実践的なプログラムを体感しました。

修了生たちはそれぞれのフィールドにここで得た知見を持ち帰り、リーダーシップを発揮しようと羽ばたいたばかり。財団では修了生や防災関係者のプラットフォームを設けるなど、今後も彼女たちの活動を継続的にサポートします。

2024年度も養成講座を実施します！
詳細は財団ホームページから

大阪市阿倍野区や兵庫県三田市を中心にママの「やりたい」を後押しするコミュニティを運営

益田　紗希子さん　NPO法人ミラクルウィッシュ代表



「自分を応援する」　心に響いた女性リーダーの言葉

「自分で自分を応援してあげてください」。その言葉に、私の心の中にあった蓋がパンと外れ、熱いものがこみ上げてきました。東北研修では、現地で活動する女性リーダーのお話を聞く中で、活動のヒントをたくさんもらいました。冒頭の言葉は、宮城県南三陸町・上山八幡宮の禰宜の工藤真弓さんの言葉です。まず自分を大切にする、そこから活動がスタートする。そんな強くて優しいメッセージを受け取りました。

新たなスタート　研修が前にすすむきっかけに

NPO法人代表として、地域でコミュニティづくりをする中で、親子や保護者を対象とした防災啓発に力を入れています。いざという時にわが子を守れる大人を増やしたいという思いで取り組んでいます。東北から帰ってきてから、団体のメンバーからは「今までと言葉の重みが違う」と言ってもらいました。実際に自分の目で被災地を見て、語り部さんや支援者の方から直接お話を聞けたことは私にとって大きな財産です。

これまではさまざまな場に出向く活動が中心でしたが、さらに今年4月からは自分たちの拠点も設けることになりました。財団の研修で女性リーダーの方々に出会わなければ、「今じゃないかも」と現状で満足していたかもしれません。この場所を、女性のエンパワメントをできる「小さな実家」にしたい。そう思いを新たにしています。

開発途上国の経営幹部や行政官、日本で学ぶ留学生を対象にした産業振興分野の研修を実施

児島　千晶さん　公益財団法人 太平洋人材交流センター（PREX）国際交流部

コミュニティづくりで大切なのは「場」の力

東北研修では、コミュニティづくりに「場」の力が大切だと学びました。ある女性リーダーの方は手ぬぐいをいつも持ち歩くそうです。場が殺風景な時に、机の上に広げるだけでも雰囲気を明るく変えられるし、災害時には、ガーゼにしたり寒さ対策で首に撒いたりすることもできるからだそうです。見過ごしてしまいがちですが、大切な視点に気づかされました。

ひとりではなく仲間とともに　防災の実践者に

実際の避難所運営をチームで取り組む講義の際には、着替えやトイレ、授乳場所など、あらゆる場面でジェンダーや多様性に配慮することの難しさと、一方でその必要性を実感しました。受講生の中には既に防災分野で活躍される方も多く、初心者の私を優しくサポートしてくださる方ばかり。思い返す度にあたたかな気持ちになります。ここで学んだ経験を生かし、まずはクレオ大阪中央と共催する市民向けセミナー「上本町SDGs大学」で、防災をテーマに講座を実施したいと考えています。

日本は災害が多い国。海外の方からは不安に感じる声をよく耳にします。そんな方々の悩みを少しでも減らせるために何かできることはないだろうか。講座を終えた今、頭の中で考えを巡らせています。自分ひとりでは限りがあると思います。講座で出会った仲間の力もお借りしながら、防災の実践者として活躍したいです。

いいね！ #ジェンダー平等 フォトメッセージコンテスト

財団ではジェンダー平等実現に向けたフォトメッセージコンテストを開催しました。全国各地、海外から計 103 作品の応募があり、子育てと防災に関する多様な事例やアイデアを発信いただきました。

一般投票は、SNS のいいねボタンを押す気軽なスタイルも取り入れ、投票数は計 1,444 件。結果を参考に、多様性やメッセージ性の高さの観点を軸に、事務局と外部審査委員が 9 作品を入賞に選びました。応募・投票いただいた皆さん、ありがとうございました！

作品の詳細・講評はこちら
入賞作品を含む応募全作品をご覧いただけます

あったか子育て賞　#たくましいママと青空

メッセージ

姉の孫(ママ)とその子どもたち。

今年は淡路島で夏休みを満喫♪

毎日大変なこともあるだろうけど、ママがんばれ！

no.3　大阪府　中村文子さん

防災アイデア賞　#子供でもできる、人命救助

メッセージ

看護師である私は、娘にいつも命の大切さを教えています。医師を志す娘にと、特別に参加させて頂いた区のAED研修。災害時や、そうでない日常においても、1人でも多くの命が救えるよう親子で取り組んでいきたい。

no.3　大阪府　丹下理紗さん

防災アイデア賞　#未来を守る頼もしいNext Generations

メッセージ

地球上で最も地震が発生しやすい場所のひとつである日本に暮らす私たち。未来の災害への備えには、未来の人材育成が不可欠です。楽しそうに、真剣に取り組む次の世代は頼もしいです。

no.38　大阪府　ぼうさいパパさん

いいね！ハッシュタグ&メッセージ賞　#水でインスタントラーメン

メッセージ

防災の講習会で教えてもらいました。インスタントラーメンに水を入れて40分待つと食べられる！
ちなみに、私はラーメンよりうどんやそばの方が食べやすかったです。

no.32　奈良県　ゆきこさん

あったか子育て賞　#平日夜のご飯手伝うはマジ辛い

メッセージ

我が家は夜のご飯作りを父、母で曜日ごとに分担。こども達の「ご飯作り手伝う～」は嬉しいけど、時間が3倍になるから本当に辛い。父、めっちゃ真顔で、リアルな葛藤が伝わってきました。

no.29　大阪府　チワワさん

あったか子育て賞　#なくそう孤育て、ふやそう個育て！

メッセージ

ワンオペ育児が増える子育て。同世代の子どもを育てるパパやママが集まって悩みを共感したり、アドバイスしたりされたり。同じ気持ちになって寄り添い支えます！子育ては「個」育て！みんなみんな大きくなーれ！

no.6　大阪府　板東咲さん

防災アイデア賞　#安心できる避難所　みんなの力で

メッセージ

４世帯パーテーション、みんなで協力しないと完成しません。女性防災リーダーG_netと地域の皆さんでチャレンジ！　仲良く、チームワーク良く、避難所をつくることができました（女性防災リーダー談）

no.53　青森県　ぽんずさん

いいね！ハッシュタグ&メッセージ賞　#まほうつかいになれますように

メッセージ

里親家族で、7歳女児の健康と多幸を願って、七五三詣りをしました。真剣に「まほうつかいになれますように」と絵馬に書き、一番上に飾りたいという要望をお姉ちゃんが抱き上げ叶えてくれました。

no.24　大阪府　ひろさん

いいね！ハッシュタグ&メッセージ賞　#みんなでお静かに

メッセージ

小さい頃、少しの物音ですぐ起きてしまう子だった娘。すやすや寝てほしくて編み出したのが、ゴルフの試合中の札のような「お静かに！」。周りのみーんなが、協力してくれる寝スタイルでした。
※もちろん片時も目を離しません！

no.46　兵庫県　まーちゃんさん

発行 大阪男女いきいき財団　〒543-0002　大阪市天王寺区上汐5-6-25 クレオ大阪中央内 TEL：06-7656-9040　FAX：06-7656-9045　https://www.danjo.osaka.jp